

# ① 地震発生時の対応について(児童の場面別)

家庭保存版

美濃加茂市立山手小学校  
令和4年版

- 緊急地震速報(警報)は、最大震度5弱以上と推定した地震の際に、強い揺れ(震度4以上)が予測される地域を、可能な限り素早く知らせる情報です。震度6弱以上の揺れが予想される場合は、特別警報として発表されます。
- 震度5弱以上の地震は、緊急地震速報(警報)の発表基準です。安全が確認できるまでは、**自宅待機**を想定しておきましょう。
- 震度6弱以上の地震は、特別警報の発表基準です。校舎の損壊、停電、断水等の被害が予想されます。**臨時休業**も想定しておきましょう。

震度に応じて、下記のような児童の動き(対応)を基本とします。

J→児童の動き T→教師の動き P→保護者の動き

地震場面	震度4以下の場合	美濃加茂市に震度5弱以上の地震が起こったら
授業日	登下校時 原則は、通常通り登下校 ※状況により近い方へ戻る。 学校→情報収集	J①:★「おうた」を歌うダンゴムシ→ J②:揺れが収まるまで安全を確保する行動→ J③:安全な場所に一時避難→ J④:児童は、自宅又は学校の安全で近い方へ行き、避難行動する ※状況によっては、安全な近くの避難所(施設・学校)・避難場所(公園)に避難する T:安否確認(メール配信、通学班連絡網、電話連絡等)→ T:校区、校舎の安全確認→ T:在校児童の安全確保→T:状況により登下校途中児童の保護・安全の場所に誘導 P:児童が家に引き返した場合、保護者が学校へ連絡 T:今後の対応をメール配信
	在校時 原則は、通常通りに授業 ※状況により集団下校か、引き渡しとする。 学校→情報収集	J①:★「おうた」を歌うダンゴムシ→ J②:揺れが収まるまで安全を確保する行動→ J③:教師の指示で安全な場所へ避難 T:教師による避難誘導・保護管理→ T:校区、校舎の安全確認→ T:今後の対応(引き渡し・集団下校・学校待機)をメール配信・HP掲載 →T:翌日の対応をメール配信・HP掲載 P:連絡を確認後、児童を迎えに学校へ J④:児童は、保護者の迎え(引き渡し)による下校→J⑤:[迎えが遅れる時は学校待機] ※P:状況によっては、自動車ではなく、徒歩・自転車等での迎えもありえる ※地震の程度や情報の解除によっては、授業を実施したり、集団下校をしたりする
	在宅時 通学路の被災状況等の安全確認の上で通常通り登校する 学校→情報収集	J①:★「おうた」を歌うダンゴムシ P:家族(自分の判断)の指示で避難 J②:児童は、原則として自宅待機(安全確認ができるまで・学校から連絡があるまで)するが、 <b>家族の判断で指定避難所へ避難等、地域防災計画に従い行動することもある</b> ※状況により学校は、T:安否確認(メール配信、通学班連絡網、電話連絡等)→ T:校区、校舎の安全確認→ T:今後の対応(授業実施・臨時休業・学校再開日等)をメール配信・HP掲載 P:児童の安否を報告、児童に学校の指示を伝達
	休業日	在宅時 被害はないか、危険な部屋はないか安全を確認して家族で判断 学校→情報収集

参考:市総合防災計画では、【震度3以上で準備体制→すぐメール】、【震度4以上で警戒体制→防災無線】、【震度5弱以上で、第1次非常体制 対策本部設置】

## 重要

◆ 以下のことについて、家庭でお子さんと話し合って決めておいてください ◆

登下校の際は、情報の発表時や地震発生時は、原則、自宅又は学校の安全で近い方としますが、「自宅」か「学校」かの判断は、距離だけでなく、できる範囲での安全状況を踏まえて避難できるようにお願いします。

◇例1: 家(学校)の近くにいるが、帰宅(登校)中の道が、がけ崩れて通れない場合どうするか →家庭で相談を

◇例2: 家族が出かけており、帰宅しても子どもだけで長時間いることになる場合どうするか →家庭で相談を

◇例3: 自宅も、学校も危険な場合は、家族で、万が一の場合は、●●●か、○○○に集合する →家庭で相談を

- 【1】原則として、電話での学校への問い合わせは、ご遠慮ください。学校からの非常時対応の連絡に支障がでます。
- 【2】地震情報の有無に関わらず、保護者の判断で危険と思われる時(家屋や樹木の倒壊、道路や橋の損壊、崖崩れなどで危険な場合、あるいは自宅等の被害が著しい場合など)は、**自宅待機**とし速やかに学校にその旨を連絡下さい。
- 【3】地震の情報発表に伴い、社会全体がパニック状態に陥り、電話や緊急メールが繋がりにくくなり、各家庭や保護者の方に連絡を取れなくなることも予想されます。そのような場合には、学校から連絡がなくても、引き渡しを前提とした準備行動をとっていただくようお願いします。
- 【4】学校からの連絡手段は、①メール配信(HP掲載) ②通学班の連絡網 ③個人の家庭電話 の順です。
- 【5】万一の大災害時に備え 171(NTT災害伝言ダイヤル)が開設された場合、保護者(お子さん)の安否などの情報を携帯電話の番号で登録する構えもお持ちいただきたいです。

裏面:安全確保編

## ② 地震と言えば、山手小の合言葉は「おうた」を歌うダンゴムシ

子どもたちは学校では、以下の場所で次のことを回避しながら安全の確保をしています。

- 【教室】にいたら、机の下にもぐり、落下物等から身を守る。
- 【廊下】にいたら、壁、窓から離れ、蛍光灯やガラス等からの落下物から身を守る。
- 【体育館】にいたら、安全な場所に移動し、天板、天井灯の落下に注意する。
- 【校庭】にいたら、落下物、倒壊の危険性のあるものから離れ、中央部分に避難する。

登下校中では、まず、①「**落**ちてこない」・「**動**いてこない」・「**倒**れてこない」場所へ避難し、建物の落下物、ブロック塀の倒壊等を逃れるため「**ダンゴムシ**（頭部を保護し、安全な場所で姿勢を低く）」します。次に、②**危険な場所から速やかに遠ざかる**ようにします。（がけ崩れが起きそうな場所や川岸、橋の上など）最後に、③**自分の家か、学校か安全で近い方へ避難**します。（場合によって、公園や避難所・避難場所）

### じしんがおきたら

「**おうた**」をうたう **ダンゴムシ**

ものが

<b>お</b> おちて こない	<b>う</b> うごいて こない	<b>た</b> たおれて こない
------------------------	-------------------------	-------------------------

ところで

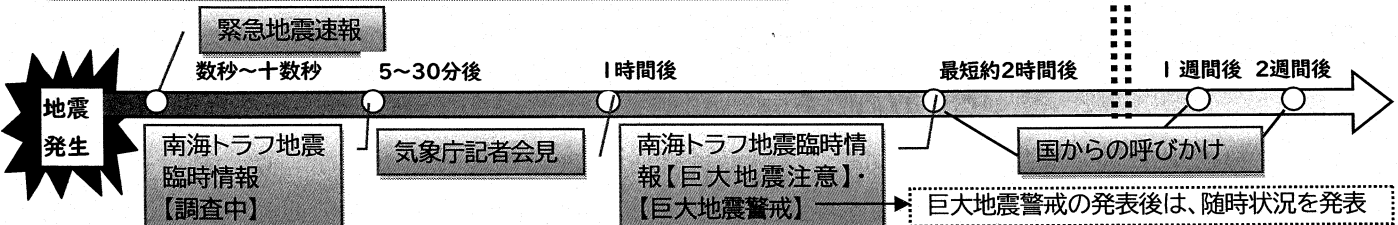
**ダンゴムシ**

**落【お】ちてこない**  
**動【う】ごいてこない**  
**倒【た】れてこない**

**場所へ避難して**  
**【ダンゴムシ】(シェイクアウト)で**  
**自分の安全を確保する行動です。**

地震等の発生に伴って、まず、必要なことが「おうた」を歌うダンゴムシです。ご家庭でも、こうした行動訓練をしておきましょう。

## ③ 「巨大地震警戒対応」における情報の流れ

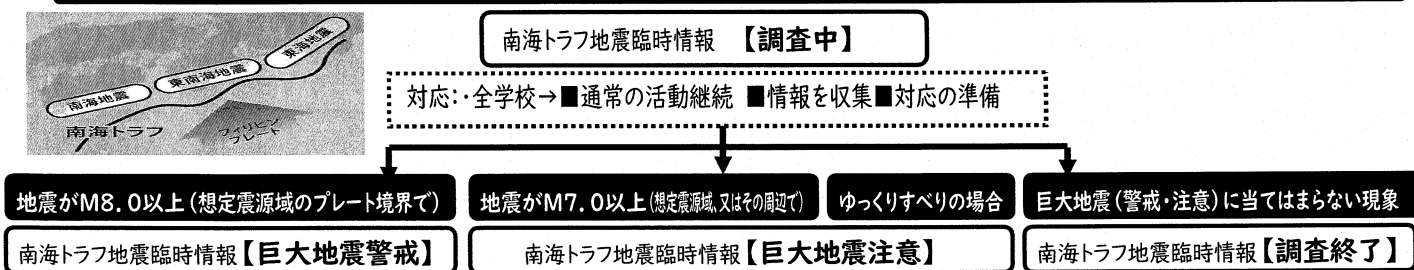


## ④ 南海トラフ地震臨時情報が発表された場合 [美濃加茂市は、南海トラフ地震防災対策推進地域に指定]

気象庁の「南海トラフ地震臨時情報」は、南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりを知らせるものです。情報の **発表条件** と **情報名** によって、以下 **.....** のように対応します。



観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合



例：一部の地域は → ■1週間程度の臨時休業  
1週間後 → 学校再開、2週間後 → 通常授業  
例：上記以外 → ■3日間の臨時休業  
※大規模地震が起きる可能性がなくなったわけではないことに留意

・全学校 → ■地震への備え ■通常の活動継続  
※大規模地震が起きる可能性がなくなったわけではないことに留意

・全学校 → ■通常の活動継続  
※大規模地震が起きる可能性がなくなったわけではないことに留意